

# 情報セキュリティ学特論レポート

## 3 者間 DH 鍵共有

園田継一郎

2021 年 12 月 30 日

### 1 はじめに

2 者間で鍵を共有する手法として, DH 鍵共有がある. DH 鍵共有では素数  $p$  (以下は全て  $\text{mod } p$  とする) と生成元  $g$  を決め, A さん, B さん, C さんがそれぞれが秘密の整数値  $a, b, c$  を持っている.  $g^a, g^b, g^c$  は公開されるので, A さん, B さんの 2 者間であれば  $g^{ab}$  を共有できる. 3 者間で同じ値を共有したいとき, 例えば A さんは  $(g^b \cdot g^c)^a = g^{ab+ac}$  を計算できるが, B さんと C さんは  $g^{ab+ac}$  を計算できない. 共有できそうな値として,  $g^{a+b+c}, g^{abc}$  が挙げられる. このうち  $g^{a+b+c}$  は  $g^a \cdot g^b \cdot g^c$  で誰でも計算できてしまうので秘密鍵として使えない.  $g^{abc}$  を共有できることが理想だが, それぞれが知っている情報で  $g^{abc}$  は計算できない. 以下では, 3 者間で鍵を共有するための手法を紹介する.

### 2 3 者間 DH 鍵共有

3 者間 DH 鍵共有には, 楕円曲線上のペアリングという演算が使われる. ペアリングは, 楕円曲線  $E$  上の 2 個の点の組からある有限体  $\mathbb{F}_p$  への写像である [1].  $P, Q$  を  $E$  上の点,  $g$  を生成元とすると, ペアリング  $e$  は以下のように定義される.

$$\begin{array}{ccc} e: & E \times E & \longrightarrow \mathbb{F}_p \\ & \Downarrow & \Downarrow \\ & (P, Q) & \longmapsto g^{S(P, Q)} \end{array}$$

ここで  $S(P, Q)$  とは, 位置ベクトル  $P, Q$  で張られる平行四辺形の面積である. ただし,  $Q$  が  $P$  の半時計回りに位置する場合は正となり, そうでなければ負となる. 辺の長さを  $a$  倍したとき, 面積も  $a$  倍されるので,  $a, b \in \mathbb{Z}$  としたとき,  $S$  について以下が成り立つ.

$$S(aP, bQ) = abS(P, Q)$$

つまり, ペアリングでは

$$e(aP, bQ) = g^{S(aP, bQ)} = g^{abS(P, Q)} = \left(g^{S(P, Q)}\right)^{ab} = e(P, Q)^{ab}$$

が成り立つ。この性質を使えば、以下の方法で 3 者間鍵共有ができる。

1. 楕円曲線上の  $P, Q$  を固定して A さん, B さん, C さんで共有する。
2. それぞれ秘密の整数値  $a, b, c$  を持ち,  $(aP, aQ), (bP, bQ), (cP, cQ)$  を公開する。
3. A さんは  $e(bP, cQ)^a = e(P, Q)^{abc}$  を計算する。B さん, C さんも同様に  $e(P, Q)^{abc}$  を計算する。

### 3 まとめ

ペアリングを用いることで、3 者以上との鍵共有ができ、マルチキャストしやすくなる。しかし、まだ実用的ではない。

### 参考文献

- [1] 光成 滋生「クラウドを支えるこれからの暗号技術」秀和システム (2015) <https://github.com/herumi/ango/raw/master/ango.pdf>